

第1学年英語科学習指導案

日 時 平成30年11月6日(火)

学 級 1年3組

男子14名 女子18名 計32名

授業者 小泉 卓

1 単元名 PROGRAM 8 (2) 教材名 Origami

2 単元でつきたい力

小学校外国語活動での体験的な活動を通して、生徒たちには音声を中心に助動詞 **can** を学んできている。中学校ではそれを文字と結び付けて、自分のできることを英語で言えるようにするだけでなく、相手のできることをたずねることができるようにする。その際に、自らのできることを発表する場面づくりや、相手のできることをたずねる言語活動を通して、口頭練習を大切にする。そして、発表して内容が **How～?** を用いて「どのように通学するのか」たずねたり、答えたりすることができるようにしたい。

- 助動詞 **can** を使って「できること」、「できないこと」を伝えることができる。
- **Can you ～?** を用いて相手が「できること」をたずねたり、適切に応答できたりする。

3 単元の指導にあたって

(1) 生徒観

1年3組の生徒たちは、英語を話すことに抵抗を感じることもなく、積極的に英語でコミュニケーションをする場面が見られる。全て英語を使ってコミュニケーションとまではいかないが、多くの生徒が単元に必要な言語材料をしっかり覚え、活動に取り組むことができる。しかし、覚えたい言語材料を書き取ることは、まだまだ発達段階である。

(2) 教材観

1学期には **be** 動詞を使って、「～である」(肯定文)、「～ですか」(疑問文)、「～ではない」(否定文)を学んだ。また、助動詞 **do** を使って、一般動詞の「～をする」(肯定文)、「～をしますか」(疑問文)、「～をしません」(否定文)を学んだ。そして2学期になって、主語が三人称単数の場合の助動詞 **does** を使った肯定文、疑問文、否定文を学んだ。これらの表現と、助動詞 **can** を使う表現の違いを学んだうえで、実際のコミュニケーションをして、**be** 動詞や一般動詞との違いを理解させたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、「～できる」(肯定文)を使えるようにしてから、「～できますか」(疑問文)で相手の「できること」をたずね、**Yes, I can. / No, I can't.** で答えることができるようにさせたい。多くの「～できる」事柄をあげることが出来るようになり、質問事項を出来るだけ多くあげさせて、コミュニケーションをさせたい。**be** 動詞や一般動詞の疑問文や応答文との違いを理解させ、適切にコミュニケーションをとることができるようにさせたい。

4 単元の指導目標

(1) できることを言えるようにする。

助動詞 **can** を用いて、自分のことを伝えることができる。

(2) できることをたずねたり答えたりできるようにする。

Can you ～? とその答え方を学び、知りたい情報を引き出すことができる。

(3) どのようにするのかたずねたり答えたりできるようにする。

How do you ～? とその答え方を学び、更に詳しい情報を引き出すことができる。

5 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
・積極的に話しかけようとしている。	・伝えたい内容を正しく言う。	・主人公の気持ちの動き、状況、その後などを正確に理解しているか。	・伝えたい内容を正しく言う。

6 単元の指導計画

	学習活動	評価規準
第1時	・助動詞 can を使って「できること」、「できないこと」を伝えることができる。	・ can を用いた文（肯定文）の形・意味・用法を理解し、表現できる。 [表][理]
第2時	・セクション1の本文を扱う。	・自分のできることについて Show & Tell 形式でスピーチを作ることができる。 [表][理]
第3時 (本時)	・ Can you ~? を用いて相手が「できること」をたずねたり、適切に応答できたりする。	・助動詞 can を用いた文（疑問文と応答）の形・意味・用法を理解し、表現できる。 [表][理]
第4時	・セクション2の本文を扱う。	・セクション2の内容理解と音読 [理][知]
第5時	・ How ~? を用いて「どのように～しますか。」とやり方をたずねたり、答えたりすることができる。	・ How ~? の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。 [表][理]
第6時	・セクション3の本文を扱う。	・本文の対話を参考に、 How ~? を使って、簡単なスキットを作る。 [表][理]

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- 助動詞 can を使って「できること」、「できないこと」を伝えることができる。
- Can you ～? を用いて相手が「できること」をたずねることができる。
- 質問の内容を理解し、自分の「できること」を適切に応答できる。

(2) 研究主題とのかかわり

本時は、研究主題の「わかる・できる」実感を持たせるために、簡単な質問を考えたり、それに答えたりする場面を通して、積極的に英語を使う場面を設定して、活発な言語活動を展開させたい。また、助動詞 can の疑問文と応答文の正しい形・意味・用法をプリント学習を通して理解し、英語の基礎的な言語材料を整理して使えるようにしていくことにより、確かな理解につなげていきたい。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	評価の方法
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none">○ 積極的に話しかけようとしている。○ 伝えたい内容を正しく言う。	<ul style="list-style-type: none">・プリント・発表

(4) 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点 ●評価								
導入 5分	1 Warm-up 教師からの英語の質問に答える。(帯学習) P.78 の Basic Dialog を基本に、セクション1の復習をする。	○お題が簡単にやり取りできる内容を、日頃から行うようにする。 ●積極的にコミュニケーションをしているか。 ○出来るだけ多くの、自分の「~できる」事柄を言うことができるようにする								
展開 35分	2 学習課題を提示する <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> できることをたずねたり答えたりできるようにする </div> 3 p.80 の Basic Dialog を練習する。 新出語句の練習 Listen に取り組む。 4 Try 「Can you ~?」を用いて、相手のできることをたずねて、その内容と相手の名前をメモする 5 例を練習する。 ・ Can you swim? ・ Yes, I can. / No, I can't. <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">できること</td> <td style="width: 25%;">水泳</td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td>名前</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ・ 何組かに発表させる。 ・ 挙手で発表者を決める。 相手を指名して、その相手を見て ・ Can you play baseball? 自分の出来ることか考え Yes, I can. / No, I can't. と応答する	できること	水泳			名前				○前時の内容を思い出す。 ●大きな声で発音しているか。 ○生徒が興味を持てるような内容 「できること」「できないこと」を考えさせる。 ○Try の活動を理解させ、コミュニケーションが取れるようにさせる。 ○疑問文の形・意味・用法を理解する。 ●積極的に活動しているか。 ●相手の「できること」を質問して、正しく応答できているか。 ●発表を聞いて、内容を理解できているか。
できること	水泳									
名前										
終末 10分	6 プリントを配付する。Program 8 ②A ・ Can you ~? の文型を反復練習する。 文型を書き取る。 ・ [チャレンジ] を発表させる。 7 本時の振り返りをする。	●疑問文の形・意味・用法を理解しているか。 ●大きな声で発音しているか。 ○机間巡視をして、正しく書き取るように指導する。 ●本時の内容が理解できているか。								